

## 平成 28 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 29 年 3 月）

報告者氏名・所属	古地 順一郎・函館校		
研究プロジェクトの名称	人口減少地域における大学と地域の協働関係と人材養成に関する研究—ソーシャルクリニック・モデルの構築に向けて—		
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●古地順一郎・函館校・准教授 根本 直樹・函館校・教授 池ノ上真一・函館校・准教授 伊藤 泰・函館校・准教授 齋藤 征人・函館校・准教授 三上 修・函館校・准教授 森谷 康文・函館校・准教授 藤井 麻由・函館校・講師		
研究プロジェクトの概要等			
<p>人口減少が進む地域において、地域と大学が協働関係を築くことで、地域の活性化および地域の創生をすることが求められている。そこで、函館校が今年度から展開しているソーシャルクリニックの実践を通じて、どのような協働関係を築けるのか、そのプロセスを含めて検証する。さらに、大学が有するさまざまな知的資源や人的資源を地域が利用し、地域の課題解決に向けて地域住民が自ら動き始める仕組みづくりに関する研究も行う。また、函館校が中心となって進める国際地域イノベーター人材養成プログラムの開発も行う。</p>			
進捗度	2	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味	
<p>(進捗度が3若しくは4の場合、問題点等の理由を記入願います。)          予定していた内容をすべてカバーすることはできなかったが、ソーシャルクリニックの実践については、予定以上の進捗状況であるため。</p>			
研究実績の概要			
<p>1. 江差ソーシャルクリニックの立ち上げ及び実践          江差町と協議の上、今年度からソーシャルクリニックを立ち上げ、始動する方向で年度初めに合意。江差ソーシャルクリニックの窓口を江差町役場まちづくり推進課に設置し、本校地域協働推進センターを通じて地域のニーズをくみ上げる仕組みを構築。本年度は、本校としてどのような協働が可能かを検討するため、江差町役場と協議しながら、以下の活動を実施。</p> <p>(1) エエまちづくり          より多くの学生に江差町を知ってもらい、学びの場としての関心を持ってもらうことを目的とした企画。第1回は、5月22日に「江差町まちあるきツアー」として実施し、学生30名と教職員6名が参加。第2回は、8月9日～12日の日程で「江差町姥神大神宮渡御祭参加体験」として実施し、学生23名と教員1名が参加。</p> <p>(2) 「江差エコシステム（ヒト・モノ・カネの循環構造）」形成プロジェクト          函館・道南地域の観光まちづくりに資する取り組みの一環として、江差町版DMO（Destination Management Organization）の形成を支援する事業。まず、7月1日～3日にかけて、学生14名と教員2名が「江差海鮮みなといか刺しまつり」と「かもめ島まつり」に参加した。また、「かもめ島まつり」では観光動態調査も行った。3月15日にDMOに関する勉強会を実施し、DM人材育成に必要な資質やスキルに関する検討を行った。</p> <p>また、地域資源の価値を再発見するため、11月より月に2回のペースで、自然環境（わかりやすい鳥類と花）の調査をし、また赤外線カメラを設置し、哺乳類の調</p>			

査をしている。

(3) まちづくりカフェ

住民主体の地域協働による互助体制の構築を目的とした試み。江差町役場健康推進課（地域包括支援センター）と協働し、「地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）」を6回開催した。のべ263名が参加し、そのうちのべ58名が中高生。まちづくりカフェの実施により、住民の主体性が育ちつつあることが観察されている。

(4) えさし研修

地域創生人材の育成を目標とした研修事業。今年度はパイロットプロジェクトとして、学生1名（3年生）を8月22日～9月16日の日程で派遣した。受け入れ先は江差町役場まちづくり推進課で調査・研究を行った。研修の成果は、10月20日の成果報告会で町民と共有され、約30名の町民が参加した。

(5) 政策アイデアコンテストへの参加

地域創生人材の育成を目標とした学生の研究活動。地域政策学研究室の学生が、江差町の活性化に向けた政策提言を作成し、「第1回はこだて学生政策アイデアコンテスト」（10月29日）に参加。政策提言の作成にあたっては、江差町役場のご協力をいただくとともに、「えさし研修」の一環としても調査が行われた。3年生のチームは同コンテストで最優秀作品グランプリを獲得。その後、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」に出品するも全国一次審査で敗退。

(6) 江差町内の先進活動の視察

住民による地域課題解決に向けた先進活動視察として、同町の地域食堂「かあちゃん食堂たまりば」の見学を1/25（水）に実施し、学生4名が参加した。

2. 知内ソーシャルクリニックの立ち上げに向けた研究

函館・道南地域の観光まちづくりに資する取り組みの一環として、知内町・小谷石地区における限界集落再生に関する研究を行い、『平成28年度 いきいきふるさと推進事業 小谷石再生プロジェクト調査報告書「はるばる来たよ♡小谷石」』としてまとめた。

3. 函館ソーシャルクリニックの立ち上げに向けた研究

(1) 地域インバウンド実践教育に関する研究

函館・道南地域の観光まちづくりに資する取り組みの一環として、函館におけるインバウンドに対応できる人材育成に関する研究を行い、成果として報告書にまとめた。

(2) 函館市におけるカラスによるごみ被害対策に関する研究

夏期と冬期にフィールド調査を行い、一つは論文「カラス類はどんな出し方のごみを荒らすのか：函館市における事例」として発表し、もう一つの論文を投稿する段階まで来ている。

今後の研究プロジェクトの推進計画

- ・江差ソーシャルクリニックの実践事例を蓄積しつつ、課題と改善点を抽出する。
- ・知内及び函館ソーシャルクリニックの立ち上げを行う。
- ・江差DMO形成支援をしつつ、DM人材の育成に関する研究を進める。
- ・国際地域イノベーター人材に必要な資質やスキルの抽出を行う。
- ・まちづくりカフェで顕在化した地域課題を解決するための住民プロジェクトを実施することを計画しているため、その実施に向けた支援。さらに、住民プロジェクトの計画～実施までを住民主体で推進していく過程に関する研究を進める。
- ・江差の自然環境調査を継続し、文化についても文献調査を進め、その関係について明らかにしていく。学生の卒論研究の一環として行い、人材養成も同時に行う。
- ・函館市におけるカラス被害については、今後投稿する論文が受理された段階で、函館市の環境部と話し合いの機会を持ち、対策を実行に移す、あるいは住民への周知について話し合う。

・函館広域圏、江差町、知内町・小谷石地区を対象にしたケーススタディの成果を、函館・道南地域における観光まちづくりの実践に援用することで地域貢献に取り組むとともに、理論の類型化や一般化に取り組む。

#### 教育現場や地域で活用可能な成果等

・ステークホルダーとともに地域課題の解決に取り組むために、江差町で江差ソーシャルクリニックの基本的な仕組みを構築した。

・江差ソーシャルクリニックの一環として行った江差町版DMO形成支援では、江差町における観光まちづくり分野における調査・研究と人材育成に寄与した。

・江差ソーシャルクリニックの一環として行った大学による「まちカフェ」等への支援によって、地域住民が主体的に地域課題を解決・低減するための工夫を考えることができる体制づくりに貢献した。また、地元中学校及び高校との連携によって、「まちカフェ」にはのべ58名もの中高生が参加しており、地域課題について年齢を超えて一緒に考える仕掛けとして、他の教育現場や地域の取り組みにも示唆を与えることができた。

・江差ソーシャルクリニックの一環として行った江差の自然環境調査結果は、江差の自然の基礎情報として使える。

・函館市におけるカラスによる研究成果は、地域住民に伝えることで、効果的な対策方法として提示できる（提示の仕方を今後、函館市と調整する）

・江差町・知内町・函館市での取り組みは、観光まちづくり論（池ノ上担当授業）、地域プロジェクトⅠ・Ⅱ、概算要求事業「国際観光イノベーター人材養成事業」において活用予定である。

#### 研究成果の公表実績

##### 【著書】（著者、書名、出版社、発行年・・・等）

池ノ上真一（2017）「デスティネーション・マネジメントは必要か～地域課題解決に果たす観光の役割」, 石森秀三, 西山徳明, 山村高淑 編『CATS叢書JR寄付講座10周年記念叢書『観光創造学へのチャレンジ』』北海道大学観光学高等研究センター、191-198頁。

池ノ上真一「第2章 地域インバウンド実践教育に関する考察 第1節 函館」, 『平成28年度文部科学省中核的専門人材育成事業 研究ノート』横浜商科大学, 2017

##### 【学術論文】（投稿中も含む）

##### （著者、表題、雑誌名、巻・号、発行年、頁・・・等）

平田 祐介・三上 修（2016）「カラス類はどんな出し方のごみを荒らすのか：函館市における事例」Bird Research. 12: A19-A29.

##### 【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

##### （名称、開催年月日、開催場所、参加者数・・・等）

・第1回地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）、2016年6月7日、江差町役場、35名

・第2回地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）、2016年7月26日、江差町役場、30名

・第3回地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）、2016年9月20日、江差町役場、48名（うち中高生18名）

・第4回地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）、2016年10月17日、江差町役場、37名（うち中高生10名）

・第5回地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）、2016年11月22日、江差町役場、42名（うち中高生16名）

・第6回地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）、2016年12月13日、江差町役場

- 、71名（うち中高生14名）
- ・地域が元気になる生活支援体制づくりセミナー、2017年3月10日、江差町役場、38名
- ・まち部発足記念パーティ、2017年3月11日、江差町役場、36名
- ・えさし研修成果報告会、2016年10月20日、江差町会館、約30名
- ・知内プレス体験会・旧秋田家住宅見学会、2017年2月24日、知内町矢越山荘、13名。
- ・国際地域イノベーター人材育成事業ワークショップ『博物館で学んだ 地域へ・とともに』、2017年2月26日、北海道教育大学函館校、14名
- ・地域協働ラウンドテーブル『Do! はこだて』、2017年3月11日、はこだてみらい館、90名。
- ・DMO勉強会、2017年3月15日、江差町役場、19名（のべ人数）

【テキスト、報告書、研修資料等】

（名称、発行年月日、発行部数、配付場所、配布者数・・・等）

池ノ上真一・ユースフル函館過疎地再生チーム編『平成28年度 いきいきふるさと推進事業  
小谷石再生プロジェクト調査報告書「はるばる来たよ♡小谷石」』北海道教育大学函館校池  
ノ上研究室・知内町役場、2017.2.28  
北海道教育大学函館校地域協働推進センター編「平成28年度ソーシャルクリニック活動報告  
書」、300部、2017.3.31

添付資料	
ダウンロード可能な ドキュメント	
関連URL	
問い合わせ先	氏 名：古地 順一郎 電 話：0138-44-4354 E-mail：koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp